



2025 明治安田 J3 リーグ 第 24 節
8/24 (日) 19:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest

福島ユナイテッド

順位表 8/17現在 基本 23試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	八戸	49p +17	32	15	H●	A●
2	栃木C	45p +13	35	22	A●	
3	FC大阪	44p +17	35	18	A△	
4	鹿児島	41p +15	40	25	A●	
5	宮崎	38p +6	31	25	H●	
6	奈良	37p +5	30	25	A△	H△
7	北九州	33p +1	25	24	H○	
8	鳥取	31p -2	23	25	A●	
9	高知	31p -4	33	37	H△	
10	松本	30p -2	26	28	H△	A●
11	栃木SC	29p -3	20	23	H●	
12	福島	28p -12	37	49	A●	
13	群馬	27p -2	32	34	A△	
14	琉球	27p -3	23	26	A●	
15	相模原	27p -7	23	30	H△	
16	金沢	26p -5	25	30	H●	
17	長野	24p -9	17	26	A○	
18	讃岐	21p -7	22	29	H○	A△
19	岐阜	20p -12	25	37	---	---
20	沼津	18p -6	24	30	H○	

次回HomeGame

第25節 vs.FC琉球

8/30(土) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯
煮込み珍道中
14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
<定休日:日曜・祝日>
TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10 分

★

アミカ

ドミ
イン



JR
岐阜駅

通算対戦成績	全11試合 (J3:11試合) 岐阜5勝 / 福島5勝 / 1分け Jリーグ岐阜ホーム戦: 1勝1分3敗			
直近の対戦結果	2025/03/08 福島 4-3 岐阜 得点者: 北龍磨x2, 栗飯原尚平 J3 - 4 節@とうスタ			
ここ 3 試合の 公式戦の 結果	岐阜	2025/08/16 J3 - 23節@ピカスタ 讃岐 1-1 岐阜	福島	2025/08/16 J3 - 23節@とうスタ 福島 2-2 栃木C
		2025/07/26 J3 - 22節@サンアル 松本 1-0 岐阜		2025/07/26 J3 - 22節@春野陸 高知 1-0 福島
		2025/07/21 J3 - 21節@長良川 岐阜 1-1 奈良		2025/07/20 J3 - 21節@とうスタ 福島 3-3 琉球

●かつてないほどにチームの不調が続く、J3 リーグ 2025 シーズン。F C 岐阜は 7 月からは石丸清隆監督体制となり、巻き返しを図る。7/21 (祝) 第 21 節・ホーム奈良戦では、前半 AT に #24 栗飯原尚平のゴールで先制点を奪う。しかし、後半の決定機を逃すと、徐々に試合のペースを相手に奪われて守勢に回るようになる。遂には後半 AT に同点を許してしまい、悔しい 1-1 の引き分けに。続く 7/26 (土) 第 22 節・アウェイ松本戦は、前半に PK を与えてしまい、それがそのまま決勝点となって 0-1 の敗戦。そして、3 週間の中断期間を経て、再開された 8/16 (土) 第 23 節・アウェイ讃岐戦。序盤は讃岐に押されるも、徐々に主導権を握る岐阜。そして、前半 30 分に #28 箱崎達也の鋭いミドルが決まり、先制点。しかし、後半の決定機を逃して追加点を奪えずにいると、讃岐の #24 上野輝人に「恩返し弾」を決められてしまう。反撃する岐阜だったが、やはり決定機を決めることができず、またしても悔しい 1-1 での引き分け。これで岐阜は、リーグ戦 7 試合未勝利、そしてホーム・長良川でも 4 試合未勝利が続いている。一方で、このチーム状況を打破するべく、7/7 (月) から 8/20 (水) までの第 2 登録期間 (ウインドー) では、これまでに #29 川本梨誉を清水から期限付きで、#97 福田晃斗を完全で、八戸から #20 加藤慎太郎を期限付きで、そして A B コペンハーゲン (デンマーク 3 部) から #18 山谷侑士を完全で獲得した。彼ら新戦力選手と、これまでの選手たちが融合して、新たなチームとして再生することを期待したい。

そして、この 3 試合の結果、F C 岐阜の順位は最下位 (= J F L 自動降格・J 3 会員喪失が想定) から 19 位 (= J 3・J F L 入れ替え戦出場が想定) に。しかし、最下位・沼津との勝点差はわずかに 2。そして、一般的に「残留ライン」と呼ばれる『1 試合あたり勝点 1 の積み上げ』の基準にも届いていない。前節の対戦で引き分けてしまった、18 位・讃岐との勝点差は 1 なので射程圏内にいるが、16 位・金沢との勝点差が 6 で、少し間を空けられてしまっている。ただし、危機感を持ちながらも、焦りは禁物だ。そして、勝点差 9 には 11 位・栃木 S C がいるので、中位グループはまだ混戦になっている。まずは、このホーム 2 連戦を何としても連勝して、下位グループから脱出することが必要不可欠だ。

さて、そのホーム 2 連戦の最初の対戦相手は、福島ユナイテッド F C だ。昨季は川崎と業務提携を締結し、初采配となる寺田周平監督の下で躍進。最終順位は 5 位となるが、プレーオフ準決勝で松本に敗れている。寺田監督 2 季目となる今季は、昨季の主力選手が移籍した影響からか中位に留まっており、現在の順位は 12 位。大量失点で負けた試合があり、得失点差は岐阜と同じくリーグワースト。直近 5 試合の成績も 1 勝 2 分 2 敗・7 得点 8 失点とあまり振るわないが、今の岐阜にとっては難敵であることは間違いない。

福島との通算対戦は、岐阜の 5 勝 1 分 5 敗・19 得点 18 失点。昨季の開幕戦・2/24 (土) ホーム戦では、#8 荒木大吾らのゴールで 4-1 と劇的な逆転勝利を挙げたが、10/6 (日) 第 31 節・アウェイ戦では撃ち合いの末、3-4 で敗戦。そして今季の 3/8 (土) 第 4 節・アウェイ戦では、後半の 12 分間で 4 点を奪われて、3-4 での逆転負けを喫している。今節は、岐阜の快勝で 5 試合ぶりのホーム戦勝利を飾りたいところだ。

福島で最も警戒すべき選手は、やはり現在 8 得点の #40 樋口寛規だろう。チーム最古参 10 年目、そして岐阜にも在籍 (12 ~ 13 年) した選手で、前回対戦時にも 2 得点を奪われている。岐阜に在籍した選手では、#17 藤谷匠 (18 ~ 23 年)、#1 上田智輝 (24 年) もいるが、彼らの活躍を許してはならない。なお、福島の絶対的エースである #10 森晃太は、累積警告で今節出場停止。岐阜は、この隙をしっかりと突いていきたいところだ。

窮地に追い込まれている F C 岐阜。しかし、まだ今季は 15 試合残されている。巻き返すことは十分に可能だが、そのためには勝利を積み重ねるしかない。離れてしまった勝利に手が届くように、僕ら F C 岐阜サポーターは最後まで諦めることなく、チームの後押しを続けよう。時には叱咤激励しながら、チャントや拍手で、タオルマフラーやフラッグで、走り続ける選手たちを鼓舞し続けよう。今節こそ、選手たちと共に勝利の歓喜を分かち合い、万歳四喝そして「HYPER CHANT」を、このホームスタジアム・長良川に響き渡らせよう。(ささたく)

おことわり: 今号の『岐大通』は 8/19 朝の締切で制作しています。その後に発表された
移籍情報等については紙面に反映されていませんのでご了承ください。

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第21節】岐阜 1-1 奈良

●「光明は見えたか」。石丸体制になって初のホームゲーム。正直言って1週間でまがりなりにも形にしてくれた石丸さんに感謝。

心なしか選手も全体的にやりやすそうに見えたのは自分だけだろうか？次節の後2週間日程が空くので、そこでさらに細部を詰めていければと。

この試合のワントップは栗飯原尚平。ちゃんとボールを受けるために降りてきて、DFを背負いながらもサイドにはたくなど、理想的なワントップの仕事ぶりをしてくれていたと思う。勝ちたかったけどね。

終盤に足を攣る選手もいたりして防戦一方の状態だったので、どこかで綻びが出なければいいなと思っていたけれど、やっぱり出てしまった……。ただ、選手達は最後までしっかり戦っていた。そこは評価してあげないといけないと思う。

今回は岐阜市民総力戦（岐阜市ホームタウンデー）。3連休最終日の19時キックオフと集客には条件が悪いかなとも思われたが、今シーズン最多の7500人越えの入場者数。繰り返しになるが、だからこそ勝ちたかったというはある。キックオフ前&ハーフタイムでの長良西小学校の児童のパフォーマンス。きっと振り付けとかも一生懸命覚えたんだろうなあちょっと感動してしまった。お疲れ様でした、素晴らしいかったです。試合中も大きな声出てたしね。

最後に泣くな、大串!!まだプロサッカー選手としてのキャリアは始まったばかり。しっかり学んで、練習して今度取り返そう！（岐阜の誇り）

●惨敗だった八戸戦は、石丸監督の岐阜での初采配となった試合だったけれど、ご自身が“時間が無かった”と語っているとおりで、実質的にはこの奈良戦が初采配となる試合。注目のスタメンは……なんと#24 栗飯原尚平が1トップの4-2-3-1。そして#22 文仁柱と#55 外山凌の位置は今までと逆。これが石丸監督のスタンダードな形なのかな。さて、序盤から岐阜が試合の主導権を握り、良いところまでは持って行けるものの、なかなか決定的な形にはならない。それでも、以前よりはシンプルに縦にボールを運ぶ意識がチーム全体に伝わっているようで、もちろん対戦相手との相性もあるとは思いますが、中盤の変な位置でボールがつかえてしまうような、そんな息苦しさは見られない。あとは決定機だよなあ……

と思っていた前半AT、#3 野澤陸のロングフィードで右サイドを突破した#16 西谷亮がボールを中央に折り返し、走り込んだ#24 栗飯原がヘッドで叩き込んで先制点！下手に手間をかけたパス回しなんかしなくても、素早くシンプルにボールを動かせば、相手の守備網は崩せて得点ができるという、実に良いお手本でした。そして良い雰囲気のまま、後半に突入。だけど、後半すぐのビッグチャンスを外してしまったところで、運命の歯車がズレたというか。やはり決定機をしっかり決めきれないと、みすみす相手に流れを渡してしまう。まあ、一方で勝利から遠ざかってしまっているのだから、ああいう場面で魔が差してしまうのかもしれない。そして時間が経つにつれ、追加点が取れないことと勝利への渴望で、徐々に後ろ向きに受けるプレーになってしまい、守備に時間を割く展開に。今季これまで何度も見た展開だ。それでも、なんとか踏ん張って後半ATに……。だけど、保たなかった。足が止まってラインの押し上げが不足していたし、オフサイドだとセルフジャッジして足が止まっていたようにも見えた。やはり、いわゆる“勝ち癖”がないと、こういう最後の場面で脆いんだよなあ……（溜息）。本当に勿体ない引き分け。だけど、終わってしまった試合結果を悔やんでも仕方ない。しっかりと反省して、今後は繰り返さないようにして欲しいと、強く思います。（ささたく）

●試合は残念なドロー。悪くなかっただけにモッたいなかった。結果を出しさえすれば、そのままノッていけるんじゃないか？そういう内容だったからねえ。だからこそ、西谷くん。アレは決めて欲しかったな（苦笑）。彼自身もなんで決まらな

かったのかわからないかもしれないね。でも、彼だけじゃなかったからね。他にも、萩野とか龍磨とか。あと、誰だっけ？「枠内だ、枠内へ打て！」と言っておきたい。ただ、相手にも似たようなミスはあったんで、妥当な結果と言われてもしょうがない。

ATが「7分」と出た時には驚いたけど、飲水タイムがあったのを思い出した。この時季の試合には飲水タイムが設けられるのかな？だとすると、長〜いATとおつきあいしなきゃいけないのか。キビシイねえ。

それでも、前節と同じチームとは思えないような内容だった。悲観する理由はないな。とにかく、次節こそ結果が出せるよう祈ってます。（ぐん）

●試合開始から、大島監督時代と選手の動きが違った。とにかく『窮屈でない』。まるで、当時の試合では「岐阜の選手だけ重力1割増しの呪い」がかかっていたかのようだ。約束事がだいぶ整理したっぽい。変わったのは1トップがあいちゃん、トップ下にジロー。4バックなんだけど右が外山で（やっぱり大島さんが外山を左で使いたかったのかなあ）、その外山は攻撃時に外に開かず、右の外目は西谷の仕事場。あいちゃんはササカイと違ってちゃんと降りてくるので『攻撃を作る』選手が1人増える。このスタイルだとササカイにスタメンの居場所がない。ネゴトラ時には『無謀な』（ここ重要）前プレをしなくなった。これでホントにバランスがよくなった。まあ、西谷が『オウン・クリアー』（笑）をしなければ勝っている試合だったんだけど。それも含めて「いまの岐阜」ってことなんでしょう。

とはいえ、「残留が目標！（どやっ）」なんで、18位になればいいのだとシンプルに考えたら希望が見える内容だったかな、と。『岐大通』だっけ？に書いたけど、今後の対戦相手を「とてもハード」「ハード」「互角かな」とカテゴライズすると、奈良は順位的にも「ハード」な相手、そこを相手に勝ち点1取れたのはよかったと思う。松本も「ハード」になるけど、どうなりますか。（吉田鎬造）

【第22節】松本 1-0 岐阜

●「それも含めてフットボール」。何年ぶりだろうか、久しぶりのアルウィンへ。実はナイトゲームをここで見るのは初めて。以前アルウィンへ向かってる途中で、雷と大雨で試合中止が発表されて、岐阜へ引き返したという事はあったのだが。現地に到着後、雷とゲリラ豪雨に見舞われ、開催も危ぶまれたが、開門時間は予定よりも遅くなったものの、キックオフ時間は繰り下がることなく予定通り開催。

あのPKのシーンだけだったんだよなあ。メインスタンドのアウェイ側で見てたので、ぼぼぼ目の前でのプレーだったんだけど、正直言って微妙なジャッジだったと感じた。レフェリーの経験値だとか、甲斐健太郎があのシーンでスライディングが必要だったのかとかいろいろな意見があるようだが、自分たちより近い位置で見ているのだし、VARがあるわけでもないで受け容れるしかない。それも含めてのフットボールなのだから。

攻撃の形はそれなりに形ができてきていて、奈良戦の時以上にチャンスはあったと思う。あとは最後の部分、フィニッシュの精度を上げていってもらえればと。

右サイドで先発起用された川本梨誉、良い動きを見せていただけに、前半だけで佐々木快と交代だったのは疑問だったし残念だった。

後半途中から投入された、先日加入が発表されたばかりの福田晃斗。プレー時間はそれほど長くはなかったが、動きはさすがに別格、本来ならJ3でプレーするべき選手ではないはず。彼の加入には否定的な声があるのは、間違いないところであろう。彼が過去の行為を悔いて改心したというのであれば、自らのプレーで結果を出していくしかない。

これで暫しの中断期間に突入。ここで石丸サッカーの理解度をどれだけ深められるか。選手・スタッフ全員が同じ方向を向いて取り組んでいってほしい。また、今まであまりゲームに絡めていない選手達にも自分をアピールする大きなチャンス。レギュラー選手に取って代わってやるくらいのつもりで頑張ってもらいたい。

この期間の過ごし方が今シーズンの行方を左右すると言っても過言ではない。(岐阜の誇り)

●アルウィン 0-1。今節も結果は残念だったけど、内容的には腑に落ちたような気がするね。

ただ、アレはなかったと思うよ？判定もカイケンのスライディングも。特に PK を誘発したあのスライディングは必要のないプレーに見えたけど。でも、アノ位置で、経験豊富な CB が選択したプレー。余裕と自信があったんだろうな。ああいう判定が出されるのも仕方がない……と自らに言い聞かせておくより他はない。リプレイを含めた映像からはボールに行ってる、相手の脚にはかかってないように見えた。なんなら、スライディングに来た脚を飛んで避けてた感じがするね。ただ、主審にはそう見えただろう。ビデオ判定がないんだからしょうがない。モグシューも方向はドンピシャだった。アレで決められたんならしょうがない。

なかなか、結果が出せなくてヤキモキするけど、それでも、さほど凹んでないのは、やっぱり、新戦力のおかげだね。福田からは『違い』が感じられた。どこにでもいるし、インジューに出した浮き球のパスにはシビれたよ。え？福田って途中出場だったっけ？存在感ありまくりだったなあ。楽しみが増えたね。

さて、8 月半ばまで夏休み。立て直しを期待。刮目して待っています。(ぐん、)

【第 23 節】讃岐 1-1 岐阜

●3 週間の中断期間と、新加入選手。さて、トレーニングを積んだ岐阜は、“6 ポイントマッチ”の讃岐とどんなメンバーで臨むのか……。そして、まあ新加入選手が何人か入ってくるのは想定していたけれど、# 7 中村仁郎や # 24 栗飯原尚平、# 31 セランテスまでもがベンチ外とは正直驚いた。これが望ましい形でのレギュラー争いの成果なら嬉しいんだけど、今季は怪我人も多いから、少し心配です。さて、試合の序盤は、讃岐が流れを掴む。新しい監督、新しい戦術、新しいメンバーって意味では、讃岐も岐阜も変わらない立ち位置のはずなんだけど、なんだかチグハグだったのはウチの方。だけど、徐々にウチがリズムを掴んできて、あと少し、決定機に近いところまで……と思っていたら、前半 30 分に # 28 箱崎達也のスーパーミドルが炸裂して先制点！ちなみに、実況では『得意のミドルで』って言われてたけど、# 28 ハコの J 初ゴールなんです(苦笑)。もちろん今までのプレーとは少し違ってて、石丸監督の言う『前を向くプレー』というのが、チームに浸透しつつあるのかな、と思いました。と、ここまでは良かったけれど、問題なのは後半。今までの試合でもそうだったけれど、なぜか後半になると得点が入らない。決定機を何度か作り出すことができたのに、それを決めきることができない。あの場面で追加点を奪えていれば、もっと簡単に試合を終わらせることができたはずだ。まあ、それができていないから、今の順位に甘んじているんだけど……(溜息)。しかも、昨季まで岐阜にいて、契約満了にした # 24 上野輝人に“恩返し弾”を決められるなんて……(溜息)。ちょっと怪しい判定ではあったけれど、ここは J 3 だし、それも含めてのサッカーだと思うしかない。そして、その後も岐阜に決定機が何度かあったのに、それも決められないんだよなあ……(溜息)。攻撃陣は猛省してください。まあ # 1 GK 茂木秀のビッグセーブが無ければ、ウチも複数失点していた可能性が高かったから、その意味では“痛み分け”と言えるのかもしれない。

最後に苦言をひとつ。この試合から『キャプテンオンリー』ガイドラインが適用され、キャプテン以外が主審に異議を示せば、警告される可能性は全選手が分かっていた筈だ。にも関わらず、異議を唱えるのは全くもって不用意だし、一方でキャプテンは、自分から主審に話しかけて他の選手たちを遠ざける責任があるはずだ。それが行われなかったという事実は、非常に重たいものだと思う。もちろん、このガイドラインの運用には課題があると僕も思うけれど、そういう意識をしっかりと持った選手をキャプテンにしないと、これからのリーグ戦ではダメなのではないだろうか。(ささたく)

●ピカスタは 1-1。もったいない試合……と思うけれども、開始から 15 分ほどの状況は、正直、降格を覚悟した。もうね、個としても組織としても形になってなくてね。ただの夏休みしてたの？3 週間……と、ただ、呆然。もし、アソコで決められてたら……。決定機は 1 回や 2 回じゃなかったからね。でも、そういうのを堪え切ると潮目が変わるのはよくある話。いや～、箱崎くん、超ゴラッソ！逆脚でアレかよ。目の保養となりました。でも、こんなもんじゃないよね？期待してます。

ただ、なあ。西谷くん……。奈良戦の二の舞を演じなくてもいいんだって。で、ソレを含めて、後半開始後の決定機 2 回を決められないのが敗因となったね。(ええ、ドローで勝ち点も付いたのはわかってます。ただ、この『6 ポイント・マッチ』で勝ちきれなかったコトは負けに等しい感ありまくりでして。もちろん、個人の感想です。)そして、なんといっても、同点弾を押し込んだのがアキトとか。恒例行事の恩返し弾。それも、ウチのキレイなシュートが決まらないのに、なんとも、まあ、泥臭い、というか、胡散臭い、というか(アキト、ごめん)。

前節に続き、厳しい判定になりましたね。残念です。それでも、ね。終了間際の龍磨の十八番が決まっていさえすれば……。いや、ホント、キツついなあ。とりあえず、20 位との差が 1 ポイント広がったコトでヨシとするしかないでしょう。讃岐も必死だったからね。出てしまった結果はしょうがない。しっかりと受け入れて、前を向いていくしかない。長良川から捲土重来。アゲていきましょう！(ぐん、)

●現地観戦でしたが、石丸監督になって一番「希望のない」試合でした。セランテスもあいちゃんもジローもササカイも福田もベンチ外。この 3 週間でフィジカル崩したんでしょうかね。

試合は、ぶっちゃけ「なんで負けなかったのか？」の答は「相手も似たようなモンだったから」としか導きようがない。きつと讃岐サボさんも「なんで勝てなかった？」「岐阜も似たようなモンだから」と思っているのではないかな。

もう、とにかく前半の攻撃のどうしようもなさ、大島サッカーのリプレイを見ているようだった。石丸さん、脳のセキュリティは大丈夫ですか？前任の監督からゴーストハックされていませんか？いやいや、これは気候を考えての安全策。秘技『死んだふり』ですよ？そうですよね？そんなボロクソな時間帯に 3 本はあった讃岐のスーパー決定機。そこで 2 本決められたら決着は前半でついていたかもしれない。ハコちゃんのゴラッソは素晴らしかったけど、ゴラッソは 2 点になるというわけでもない。新加入の 2 人が F W 張ってる岐阜は「ウチはいつでもいつまでもチーム構築中です」な雰囲気満ちあふれていた。

後半は逆。岐阜に 3 本はあったスーパー決定機、そこで 2 本決められたら決着はついていたかもしれない。それをタイムボカン・シリーズの悪役 3 人衆のように様式美よろしく逃してしまう岐阜は、さすが「後半の得点はリーグ・ワースト」(苦笑)。元・岐阜のアキトに恩返し押し込み(強盗ではない)をされて同点にされてしまう。その後も双方に決定機はちゃんとあるのに、決めきれれば普通に勝てるのに、それが出来ない。そのまま試合終了。これではどっちも修羅場から抜け出せない。

奈良戦のところで書いた『対戦相手のカテゴライズ』をもう一度書くと、讃岐は明らかに「互角かな」に入る。その相手にホントに「互角」の戦いになってしまったのは著しく不本意だ。「とてもハード」な相手からはなんとか勝ち点1をもぎ取り、「ハード」な相手からは勝ち点1、取れるなら勝ち点3を掴みに行き、「互角かな」の相手からは確実に勝ち点3を得る。これが残留への王道ルートだと思うのだけど、「ハード」な松本に負け、「互角」の讃岐に引き分け。これは明らかに残留への王道ルートから外れていることを意味する。(吉田铸造)

現時点の JFL の状況。

●第 18 節終了時点です。JFL も 7 月下旬から 1 ヶ月程度の休みに入っています（この時期に各地で国体予選をやるのですね）。数字は吉田铸造が集計しました。平均入場者数は端数切り捨て。

1 位：滋賀	勝ち点 34	◆ライセンス申請済	2,044 人
2 位：V 大分	勝ち点 33	◆ライセンス申請済	1,830 人
3 位：青森	勝ち点 32	◆ライセンス申請済	1,870 人
4 位：沖縄	勝ち点 32		
5 位：Honda	勝ち点 31		
6 位：浦安	勝ち点 30	◆ライセンス申請済	617 人
7 位：枚方	勝ち点 28		
8 位：岩手	勝ち点 25	ライセンス未確認	1,664 人

ライセンスというのはクラブの経営・運営の指標なので、よほどの問題がなければ前年度に通っていたところは通ります。岩手は公式サイトでは申請の有無は公開されてないですが、たぶん出しているでしょう。滋賀がついに平均観客 2,000 人に到達。会場設備もホームが国体メイン会場なのでクリア、滋賀が優勝となるといよいよ J3 最下位は自動降格の「首洗い」状態になります。注目はヴェルスバ大分（金崎夢生が所属しています）。今季最後の大分ドーム開催と思われていた 17 節・Honda 戦で 7,029 人というとてもない動員を成し遂げ（試合も 2-1 で勝利）、観客動員面でも昇格ゾーンを視野に。残りホームは大分サッカー場（岐阜が地域決勝・決勝 R を戦ったところ）が 4 試合、日田が 2 試合……のはずでしたが、大分サ開催予定の沖縄 SV 戦が大分ドーム開催に変更。器に不足なし。残りのヴェルスのホーム戦（日田開催を含む）開催予定日は、同じ週末に大分ドームで大分トリニータの試合があるので、さすがにもう会場変更は出来ないと思いますが……。滋賀・青森・ヴェルスバ大分の 3 チームは今季 JFL で 2 位以内に入る可能性があり、仮にそのうち 2 チームがどちらも 2 位以内＆どちらも平均入場者数 2,000 人をクリアすると、J3 最下位は（昨季の岩手のように）自動降格、J3 の 19 位は（昨季の YS 横浜のように）JFL 2 位との入替戦となります。1 つが JFL 2 位以内だとしても、その 1 つが JFL 優勝の場合は J3 最下位は自動降格。JFL 2 位だと J3 最下位は入替戦です。さらに、来季（来年後半）からは『秋春制』となり、もし今季末の結果で JFL に降格となると、再昇格がいつになるかわかりません（2026 年 9 月～2027 年 5 月 or 6 月の JFL と J3 との入替については決定していません）。難儀です。(編集人・吉田铸造)

来季の前半の大会の日程概要が発表になりました。

●2026 シーズンから J リーグは（JFL も）『秋春制』が導入されることは決まっています、リーグ戦は秋スタート。そのため、春季に特別な大会が開かれます。7 月下旬に大会日程が発表になりました。J3 チームの参加する大会は以下の通りです。

① J2 & J3 の 40 チームを 10 チームごと 4 グループにわけ、H & A のリーグ戦を行う（計 18 試合）。期間は 2/7,8 ～ 5/23,24 まで。

②各グループの同順位同士の 4 チームずつでノックアウト方式の順位決定戦（プレーオフ）を行う。日程は 5/30,31 と 6/6,7。

【例：3 位グループ戦の場合】各グループの 3 位（4 チーム）が集まって 1 回戦。そこで勝ったチーム同士で 2 回戦を行い勝者は通算 9 位で敗者は通算 10 位。1 回戦で負けたチーム同士の 2 回戦で勝者は 11 位、敗者は 12 位。このレギュレーションは、1985 ～ 1988 年の日本リーグ（JSL）2 部で行われた下位リーグ順位決定方式に似ています。そして、当然なんですがこの大会は J2 & J3 混成の大会なので、大会の結果による昇降格は発生しません。(編集人・吉田铸造)

【手計算ですが】この福島戦が、FC 岐阜の公式戦通算 900 試合目です

●以下、すべて吉田铸造が手作業で集計したものになります。FC 岐阜の初の公式戦は 2001/5/20 に行われた岐阜県リーグ 1 部、岐阜教員戦@各務原スポーツ広場。そこから数えて、今日の福島ユナイテッド戦が【通算 900 試合目】になります。

- ①リーグ戦関連＝県 1 部：30 試合、東海社会人：4 試合、東海 2 部：28 試合、東海 1 部：14 試合、地域決勝：6 試合、JFL 入替戦：2 試合、JFL：34 試合、J3：196 試合、J2：503 試合
- ②カップ戦関連＝全社県予選（天皇杯社会人予選）：26 試合、全社東海予選：6 試合、全社：4 試合、県選手権（天皇杯予選）：11 試合、天皇杯：34 試合、ルヴァン杯：2 試合。

これまでの 899 試合の結果は 333 勝 182 分 384 敗（勝敗は V ゴール、延長戦、PK 戦を含む）。J 昇格前（2007 年まで）の通算は 119 勝 17 分 30 敗なので、昇格後は 214 勝 165 分 354 敗。昇格後に苦戦しまくっているというのが数字でわかっています（苦笑）。まあ、プロ・サッカーの場なので、相手は強いとこだらけ、当然ではあります。それでも、自分たちもそのプロ・サッカーの場の末席にいる（比喻）のですから、もう少し主張（アピール）したいところだよなあ。せめて通算で勝ち負け五分にはもっていきたい（累積借金 51 を返済したい）ですよね……あと何年かかるかわかりませんが（苦笑）。(編集人：吉田铸造)